昭和25年9月1日第3種郵便物認可　平成30年6月1日発行（毎月1回1日発行）第69巻第6号通巻815号　ISSN0559-6963

月刊 社会保険 6

2018 VOL.815
一般社団法人
全国社会保険協会連合会

平成30年度における年金委員の重点的な活動内容等について
社会保障について（概要）
これまでの医療保険制度改革と一体改革後の展望
働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律案の概要

月刊 社会保険 6 VOL.815 June 2018

目次

平成30年度における年金委員の重点的な活動内容等について 4

社会保障について（概要） 8

これまでの医療保険制度改革と一体改革後の展望 13

働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律案の概要 14

年金・健康保険委員活動報告 社会保険委員として思うこと
医療法人大田原厚生会室井病院事務長 佐藤 俊樹 18

あの人 この人 私たち 第14回 怪しくも 胸が高鳴る 不倫 フリン
エッセイスト 藤川 鉄馬 20

書評 筒井 清忠著『戦前日本のポピュリズム－日米戦争への道』 23

自分が変われば会社も変わる!? ビジネスチャンスを拡げる行動変容
第2回 企業内における権威勾配の影響
埼玉学園大学教授 古澤 照幸 24

さまざまな視点から考える認知症
第2回 早期治療で前向きになんでも挑戦！ 軽度認知障害 山本朋史の視点
NPO法人ハート・リング運動アドバイザー・元週刊朝日編集委員 山本 朋史 26

認知症を予防する 第2回 アルツハイマー病 真実と終焉
お茶の水健康長寿クリニック院長 白澤 卓二 28

社会保険Q&Aシリーズ 健康保険編 30／年金保険編 32／介護保険編 34／労働保険編 36
特定社会保険労務士 鈴木 ひろみ

表紙写真・竹内敏信／イラストレーション・水森亜土／デザイン・STデザイン、（有）フェイム／編集協力・（株）アップルハウス／印刷・（株）エイエヌオフセット

表紙のことば――竹内敏信 「光の響」「樹の風景」

富山県立山町

山の天気には大きな変化があり、おもしろい出会いがある。

このときもそうである。太陽が雲に隠れたときのわずかな時間である。急に辺りが暗くなった瞬間、霧がかかったのである。見下ろすと霧で前が見えなくなり、恐怖さえ感じる状況であった。

霧が出ると遭難のおそれがあり、撮影に集中しすぎると居場所を見失うことがある。十分な注意が必要である。

霧がかかったのは、約10分くらいであった。雲に隠れた太陽が顔を出し、霧が一瞬で晴れたのである。「風景は一期一会」とは、まさにこのことをいうのではないだろうか。

◎ 本誌制作にあたっては、国等からの補助金等を一切受けておりません。

一般社団法人全国社会保険協会連合会 広報出版課（提供） TEL 03-5434-8578

年金・健康保険委員活動報告

社会保険委員として思うこと

医療法人大田原厚生会室井病院事務長
佐藤 俊樹

大田原社会保険委員会は、栃木県北部4市町の事業所で構成されています。

源平屋島の合戦で有名な、那須与一資隆の出自である那須家の中で、那須7騎と呼ばれる有力家臣団の領地ほぼすべてが含まれる地域です。

東北地方との境界に位置している関係上、奥州進出を目指した八幡太郎義家や源頼朝との関係が深く、関ケ原合戦前の上杉攻めの際には、徳川家康、秀忠の本陣予定地となった大田原城や黒羽城、幕末期には、水戸天狗党との戦いや会津を中心とした旧幕府軍との間で、大田原城攻防戦も行われました。

また、本年の大河ドラマの主人公である西郷隆盛の実弟、西郷従道を祀った西郷神社、従弟夫妻である大山巌、捨松の別邸や墓所、山県有朋や乃木希典の別邸、乃木神社など、関係施設や史跡が豊富にありますし、「奥の細道」で、松尾芭蕉が最も長く逗留した場所としても有名なところです。

・・・・・・

私が勤務する医療法人大田原厚生会室井病院は、その中の大田原市に立地しています。

法人設立は、昭和34年で、外科医師だった初代院長によって、精神科と内科をあわせて27床にて開設されましたが、設立後間もなく院長が急逝し、病院存続のための大変な苦労や、その後の医療制度の変革への対応、建物の改築など、大河ドラマに匹敵するような、数多くのエピソードを経て、現在は病床数２０４床の精神科主体の病院と、介護老人保健施設、精神障害者グループホーム、在宅介護支援センターなど、医療と介護、福祉をあわせた医療機関になりました。

開設当初は、町はずれの位置づけで、病院の周囲は田んぼと竹藪だけ、人家もほとんどない状態だったそうですが、現在は周囲ほぼ全部が住宅地に変貌した中で、「地域のために そして 地域とともに」を経営理念としつつ、近隣の皆さんとも良好な関係を保ちながら運営しています。

とはいえ、精神科については、関係者以外の人はもとより、医療従事者であっても、認知されているとはいいがたい診療科目であるのも事実で、最近は、ストレスやメンタルヘルスがクローズアップされることによって、以前よりは診療を受けやすい状況になってきたと思いますが、それでも偏見や固定観念は、根強く残っていると感じられます。

療養環境についても、映画「アマデウス」のように、患者さんが壁に鎖でつながれている、あるいは、鉄格子の中に閉じ込められていると思っている人が、今でもいらっしゃることに驚かされました。

精神科の医療について、理解を深めていただけるような努力を、もっともっとしていかなければならないと感じています。

・・・・・

社会保険委員としての活動については、私は平成8年に社会保険委員の任命を受けました。

当時の社会保険事務所を所管する県の保険課（後に社会保険事務局）は、診療報酬算定の許認可権を握っているところで、数年に1度行われる適時調査（診療報酬が、基準どおりに適正に算定されているかを確認する調査）において、解釈を巡っての厳しいやりとりもありましたし、決して親しみやすいとはいえない雰囲気がありましたので、事務局とは距離を置きたいし、さりとて委員間の交流は深めたいし、というジレンマを抱えていたのも事実です。

診療費の請求においては、誤解や錯覚という理由は一切通用せず、医療機関にとって、「診療報酬算定基準を守ることは絶対である」ということも、社会保険事務局との対応の中で、しっかりと身につけさせていただきました。

今となれば懐かしい思い出にもなっていますが、社会保険庁も社会保険事務局もなくなり、診療報酬の所管官庁も厚生局に移り、さらには年金機構と協会けんぽに分離されるといった、現在までの想像すらできなかった激しい動きによって、かなり翻弄されてきたと思います。

直近においても、年金機構のさまざまな問題発生によって、本来のあるべき委員会活動に支障が出ているとも感じられます。

社会保険委員の使命として、被保険者や事業所と、機構・協会とのパイプ役になることについては、なんら疑問を感じることはありませんが、委員会が開催されるたびに、年金事務所長からお詫びの言葉が出る状態というのは、やはり異常だと思います。

1人の委員にどれだけの対応ができるかと考えれば、さほどのことはできないとは感じていますが、社会保険委員としての活動を継続していくためにも、これからも委員会の皆さんと力をあわせていきたいと思います。

・・・・・・

ところで、皆さんは、ストレス解消法をいくつお持ちでしょうか。

当院では、職員採用面接のときに、必ずこの質問をするようにしています。

面接の中での突然の質問で、咄嗟のことですから、応募者もひとつか2つ、多くても3つくらい答えられればよいほうですし、正答があるわけでもありませんが、理想としては5つから6つくらいは答えられるように心がけたほうがよいと伝えています。

日常生活の中でも、仕事の中でも、いろいろなストレスがかかります。

それを避けることは実質不可能なものだとも思います。

そして、気分障害等になった人は、大抵、「自分はなるとは思わなかった」「自分は大丈夫だと思った」といいます。

根拠のない自信でごまかさず、ストレスをうまくかわし、自分の中で解消するためにも、ご自身なりのストレス解消法を1度お考えいただくとよいかと思います。

簡単に取り組めるもので、私自身行っているのが、自分の行動計画の作成と実行です。

言葉にすると、仰々しくなりますが、あまり難しく考えず、「もう1度経験したい」「もう1度行ってみたい」「もう1度食べたい」「もう1度会いたい」。

これまでの経験を思い出して該当項目を抽出し、実施計画を立て、「この仕事が終わったら」「この問題が解決したら」を目安に、可能な限り実行します。

仕事とは関係なく、自分だけの計画ですから、時期がずれても、順番が変わってもなにも問題はありません。

そして、ひとつ実行したら、計画をひとつ追加します。

計画といっても簡単に実行できるものばかりで、他愛のない内容ですが、考えるだけでも楽しいし、結構ストレス解消になりますよ。

（大田原社会保険委員会副会長　栃木県社会保険委員会連合会理事）

医療法人大田原厚生会室井病院